

診療所特別会計

補正予算の修正案

提出者 近藤議員
西尾議員

修正内容

大山診療所の健診センター化にかかる費用をいったん保留する。

提案理由

【近藤議員】

健康という最も住民に身近な問題で、大きな制度変更を行うにもかかわらず、予算提案をする前に住民説明会を行っていない。

町民健康づくり運動の取り組みで、人間ドック事業の適正な実施方法と費用負担のあり方を、町民参画の上で検討し、理解を得てから予算提案をすべきだ。

医療費

【杉谷議員】

大山診療所の1200万円の赤字からすればいい考えだと思つ。

医療にはお金がかかるが、どう思つか。

【近藤議員】

問題は住民の理解が得られているか。得られていないのなら、年明け後の補正予算でもいいのではないか。



地域の医療をどうするか

リース契約

【吉原議員】

医師が見つからなければリース契約をしないので、原案でも同じではないか。

【近藤議員】

人間ドックの費用など、住民に説明をしないまま予算を提案されていることは適当でない。

討 論

原案に賛成

【杉谷議員】

鳥取大学医学部に「議会で予算が通ったので、一日も早く人間ドック担当医を決定してほしい」とお願いすることは、交渉を優位に進めるための戦略であり、町の思いを伝えることができる。

【大森議員】

大山診療所は、主に大山区の人々にとって、重要な医療機関である。存続させる方策が、人間ドックによる健診センター化だ。

【西山議員】

医療機関は、自治体の社会資源である。社会資源を守ることが行政の責務だ。

【岡田議員】

人間ドックの受診者に負担をお願ひし、今回の施策を進めていくことに賛成だ。

【大杖議員】

大山診療所の運営改善のため、健診センター機能など専門的な視野から立案されたものである。

【遠藤議員】

固定医の確保がむずかしい中で、今回の予算を組むことで医師の確保にプラスにつながるのではないか。

修正案に賛成

【西尾議員】

診療所全体をどう考えていくか、町の医療をどう考えるか、いろいろなやり方があると思つ。

もう少し実効性のある案を考えてほしい。

【圓岡議員】

人間ドックのデータが、かかりつけ医で共有できないのでは意味がない。

【加藤議員】

新しい人間ドックの助成は財布に余裕がなければ受けられない。もう一度冷静に制度と診療所のあり方自体を論じる必要がある。

原案
可決